

———— 人類史上最も大きな3つの事件 ————

ある歴史学者は次の様に言いました。人類史上で最も大きな事件を3つ挙げるとしたら、

- ・1番目、神が人間としてこの世に来られたこと。すなわちイエス・キリストの誕生です。
- ・2番目、その神が死なれたこと。これは人間の死ではなく神の死です。
- ・3番目、その死んだ神がよみがえられたこと。イエス様の復活、イースターです。

彼は**イエスの誕生**と、**イエスの死**と、**イエスの復活**を人類史上最大の事件だと言ったのです。今日は、2番目の、「神が死なれたこと」から、お話しします。

イエス様の人生の目的 それは、父なる神様の御旨を行なうこと。  
 罪人の身代わりとして、死ぬこと。  
 この時期に、ゴルゴタの丘で、十字架に掛かる事。  
 イエス様は、死ぬために、生まれて来られたお方です。

----- ゴルゴタ -----

(27:33)「ゴルゴタと呼ばれている場所、すなわち『どくろの場所』に来ると、・・・」  
 イエス様はゴルゴタという場所に来ました。エルサレムの町の外にあった処刑場です。今日、正確な場所はわかりません。そこは聖墳墓教会のある所とされています。  
 ゴルゴタ(アラム語)は「されこうべ(どくろ)」の意味です。この場所でイエス様は十字架に掛けられるのです。それにしても何故、この様な名不気味な名がつけられたのでしょうか？

- ① ヒエロニムスは言いました。「この地には、野ざらしの頭骸骨が、たくさん転がっていたから」つまり、そこはすでに処刑場だったのです。
- ② 一般的な考え方では、次の様に言われていました。「この地域が、遠くから見ると、人間の頭蓋骨の形をしていたから・・・」

----- ・・・ぶどう酒を飲もうとはされなかった -----

イエス様は、いよいよゴルゴタの丘の、十字架に掛けられました。  
 (34節)「彼らはイエスに、苦みを混ぜたぶどう酒を飲ませようとした。イエスはそれをなめただけで、飲もうとはされなかった。」  
 兵士達は、イエス様を十字架につける時に「苦味を混ぜたぶどう酒を飲ませようとした。」のでした。これは苦しみをやわらげるための薬が入ったぶどう酒です。でもイエス様はそれをなめただけで飲みませんでした。その理由は、十字架の苦しみを味わい尽くすため、あるいは、最後の最後までしっかりと意識を保って、まだ救われていない罪人たちの救いのために、祈るためでした。

・イエス様は、私たち罪人の苦しみをとことん味わわれようとされたのです。又、最後まで意識をはっきりと保って、私たちの救いのために祈ろうとされたのでした。

ここに神様の業を全うしようとされている父に忠実な御子の姿を、そして最後まで罪人を愛されている御子の姿を見る事ができます。

----- AM9:00～PM12:00 十字架での苦しみ-----

(35～37、読む) さて、そんなイエス様の愛の姿に気が付いていない罪人たちは、イエス様を十字架に付けました。そのイエス様の頭上には『『これはユダヤ人の王イエスである』と書かれた罪状書き・・・』が掲げられました。その意味は、「イエスはユダヤ人の王であると自称した(ホラを吹いた)」と言う意味なのです。

でもこれは事実でもあります。皮肉? 何故なら、イエス様はダビデの子孫です。更に旧約聖書において、約束されたダビデの永遠の王座に着く霊的な王様であったのです。

つまり結果的に、イエス様の罪状書きが、イエス様の真の姿を公に示してしまったのです。神様は人間のおろかさをも用いて、真実を教えて下さるお方、御業を行なってしまうお方なのです。そして、私たちの教会は、このイエスをキリストと告白する教会です。

(38 節)「そのとき、イエスと一緒に二人の強盗が、一人は右に、一人は左に、十字架につけられていた。」

イエス様が十字架に付けられた時、イエス様の両側に 2 人の強盗も十字架に付けられました。それにしてもイエス様はまさにこの強盗と同じレベルの者として処刑されようとしているのです。イエス様は、罪人として殺されるのです。

イザヤ 53 : 1 2 「・・・彼が自分のいのちを死に明け渡し、背いた者たちとともに数えられたからである・・・」

----- ののしった -----

そんなイエス様を多くの人々がののしり、あざけりました。みんなイエス様をあざ笑ったのです。(39～44、読む)

① (39 節)、たまたまその道を通り過ぎて行く人も、罵(ののし)りました。「頭を振りながらイエスをののしった」のです。これは、イエスを徹底的に嘲笑しているしぐさです。

(40～42) 彼らは言いました。「もしお前が神の子なら自分を救ってみろ。そして、十字架から降りて来い。」言葉の意味を知らない、恐ろしい呼びかけです。イエス様は自分で十字架から降りる事は出来ました。でもそれでは人類は救われません。人々への愛がイエス様を十字架にとどめたのです。

② (41～43)、同じような意味の事を「同じように祭司長たちも、律法学者たち、長老たちと一緒にイエスをあざけて言った・・・」

③ (44 節)「イエスと一緒に十字架につけられた強盗たちも、同じようにイエスをののしった。」

しかしイエス様はどの様にののしられても少しも反論しませんでした。ただ罪びとの罪を背負ってじっと耐えておられました。このイエス様の沈黙の中に大きな私たちへの愛を感じますね。

----- PM 12:00～3:00 十字架の苦しみ、そして死 -----

(45 節)「さて、12時から午後3時まで闇が全地をおおった。」

イエス様は午前9時から十字架につけられました。約3時間が経ちました。ちょうど12時になった頃「闇が全地をおおった」のです。この現象は神様が罪に対して審判を行われていることを示すものです。イエス様は今、全人類の罪をその身に負われています。私たちが受けるべき罪の罰を受けておられます。

(第一ペテロ 2:22～24) (聖餐式の時のみことばです)

そしてその時、神の御子イエス様は一時的に父なる神から見捨てられました。

イエス様が苦しんでおられる時、暗闇がイエス様を覆いました。神は主の苦しんでおられるその姿を隠されたのです。もしもその姿を見たならば、誰もが生きる勇気を失ってしまう程、それは恐ろしい光景であったと思われまます。

(46 節)「エリ、エリ、レマバクタニ。」という叫びは、その苦しみを現わしています。これは(詩篇 22:1)「わが神、わが神 どうして私をお見捨てになったのですか。」の成就です。この時イエス様は「父」と言わないで「神」と呼んでいます。父もまたキリストを子とは見ていません、ひとりの罪人と見ています。父は我が子を御子を罪人として罰しておられるのです。

(47~49) イエス様の周囲にいた人々は、イエス様の声を聞きました。でも彼らの中には、聞き間違えてエリヤを読んでいるという人もいました。

(50 節)「しかし、イエスは再び大声で叫んで霊を渡された。」

イエス様が最後に語られた言葉は何であったのでしょうか？ここには記されていません。しかし、4つの福音書を総合すると、イエス様は十字架上で7つのことばを語っておられます。(ヨハネ 19:30)「完了した。」

(ルカ 23:46)「イエスは大声で叫ばれた『父よ、わたしの霊をあなたの御手にゆだねます。』こう言って、息を引き取られた。」

イエス様はこのようにして罪の贖いのわざを完成して、地上の生涯を全うされました。その最後は実に壮絶、厳粛な一瞬でした。 イエス様が亡くなられた直後です。

----- 幕が避けた -----

(51 節) 十字架上でイエス様が死なれた、その時「神殿の幕が上から下まで真っ二つに裂けた。・・・」のです。神殿の幕が上から下へ裂けた、ということは、ついにイエス様の死によって贖いの業が完成したということの意味をしています。イエス様の死によって、人が神様との交わりを回復する道が開かれました。

確かに「わたしが道であり 真理であり いのちなのです。」(ヨハネ 14:6)

この幕は聖所と至聖所との仕切りの幕です。

大祭司は年に一度、贖いの日に犠牲の動物の血を携えて、この幕を通ります。そして至聖所に入ります。この様にして、ついに人々の罪の贖いをする事が出来ました。

そして、ついに私たちはキリストの血によって大胆にまことの聖所である、神様の臨在に入ることができるようになりました。 その時です。

———— 神様の業が示された ————

幕が裂けた奇跡に続いて、幾つかの奇跡が起こりました。

(51 節)「すると見よ。神殿の幕が上から下まで真っ二つに裂けた。地が揺れ動き、岩が避け、・・・」その時に、起こった事の

———— 墓が開かれた ————

・その一つは、地震です。そして岩が裂けました。これらは、神殿の幕が裂けた後に起こ

った事ですが、神様の超自然的な力である事を教えています。これらの一連の出来事に、神様が介入していることがわかりました。

・その二つ目は、(52、53 節)「墓が開いて、眠りについていた多くの聖なる人々のからだが生き返った。」ことです。主イエス様の死によって、死の力に打ち勝ち、キリストを信ずる者たちを救い出したことがここで教えられています。まさに、三日の後に起こる、復活の前兆です。

———— イエス様を見た人々 ————

(54 節) さて、十字架上のイエス様の姿を多くの人々が目撃していましたが、そんな中で、ローマの百人隊長やイエス様を見張っていた兵士たちは、これら一連の出来事を見て「この方は本当に神の子であった。」と告白しました。

それにしても、多くのユダヤの人々が、イエス様の十字架を見ながら、イエス様を拒絶したのに、この少数の異邦人たちは、イエス様が救い主(メシア)である事を認めました。

(55、56 節) 主の十字架を見つめていた、人々の中にずっとイエス様について来た多くの女性たちがおりました。男の弟子たちはとっくの昔に逃げて行ってしまったのに、いつもはあまり目立たない女性たちが、この大切な時、イエス様から離れないで、主を見守っていたのです。

———— 十字架の 3 つの意味 ————

最後にもう一度、イエス様の十字架の意味をまとめてみましょう。

・第 1 に、イエス様の十字架は、人々の罪に対する、神様の刑罰です。

罪の刑罰は死刑です。その意味で罪を犯した私たちはすべて死刑なのです。

(ヘブル 9:27)「・・・人間には、一度死ぬことと死後にさばきを受けることが定まっているように・・・」

イエス様は、人々の罪のために、その刑罰である死を経験なさいました。

私たちも、十字架がなければ、同じ運命が待っていたはずでした。

・第 2 に、イエス様の十字架は、神の愛を表しています。

イエス様の死は、罪のない者が、罪人のために身代わりになるという、犠牲的な死なのです。「あなたがたの敵を愛しなさい」(ルカ 6:27)と言われたイエス様は、このことばの通りに、自分に敵対する罪人のために、犠牲を払われて死んだのです。ここに神様の無限の愛が証しされています。

(ローマ 5:8)「しかし、私たちがまだ罪人であったとき、キリストが私たちのために死なれたことによって、神は私たちに対するご自分の愛を明らかにしておられます。」

この様にして十字架は刑罰の道具から、愛のシンボルになりました。確かに十字架は、神様が私たちを愛していると言う証拠なのです。

(ヨハネ 15:13)「人が自分の友のためにいのちを捨てること、これよりも大きな愛はだれも持っていません。」

・第 3 に、イエス様の十字架は、救いの約束が成就したことを教えています。

イエス様は十字架の上で「完了した」(ヨハネ 19:30)と言って息を引き取られました。

これは旧約聖書の預言、神様の救いの約束が完了したと言う意味なのです。旧約聖書の 39 卷の何千年にも渡る預言が、ここに完璧に成就しました。

今、私たちが救われる道は完全に出来上がりました。では、私たちは私たちが救われる道、十字架に対して、どの様な態度を取っているのでしょうか？

—— 私たちの態度は・・・ ——

イエス様の時代の、

第 1 に、あのユダヤ人のように反感を持って見ているのでしょうか？それとも

第 2 に、あの異邦人の様に、イエス様を神の御子、救い主として受け入れるのでしょうか。

第 3 に、あの無名の女性たちの様に、イエス様を心から愛しているのでしょうか？

主イエス様の、十字架で示された愛を、しっかり受けとめましょう。確かに、あのカルバリの十字架は私の十字架なのです。

(第一ヨハネ 3:16)「キリストは私たちのために、ご自分のいのちを捨ててくださいました。それによって私たちに愛が分かったのです。」

—— 十円玉を選んだ少年 ——

お母さんを亡くして、お父さんの手で育てられていた少年がいました。彼は知的な障害を持っていました。この少年はお父さんの都合である期間、施設に預けられていました。その施設では、お父さんの所に、この少年を返す前に、お金の価値を教えることにしました。1 円、5 円、10 円、50 円、100 円、500 円。先生は学習効果を確認するために、一番高い効果を選ばせました。すると少年は 10 円銅貨を指さしました。理由を聞くと少年は、このお金で、お父さんと電話で話が出来るから、と言いました。この少年にとって、お父さんとお話ができる 10 円玉が、一番価値があったのです。

(第一コリント 1:18)「十字架のことばは、滅びる者たちには愚かであっても、救われる私たちには神の力です。」